広報 九州

平成22年11月10日
（２０１０年）
No １６６６

九州森林管理局
〒860-0081
熊本市京町本丁2－7
IP電話 050-3160-6600(代表)
http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/

国民の森林・国有林

第3回九州森林・林業セミナー開催

国際生物多様性年を記念し

今年は国連で定める「生物多様性年」です。10月には名古屋において「国連地球生きもの会議」（生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開かれ、生物遺伝資源の利益配分ルールなどを定めた「名古屋議定書」が全会一致で採択されたほか、各メディアでも「生物多様性」が大きく取り上げられました。

九州森林・林業セミナーで講演に聴き入る参加者

このような中、九州森林管理局では、これまで一般にあまり馴染みがなかった、しかし実は「地球温暖化」と同様、私たちの生活に大きな関わりがある「生物多様性」と「生物多様性の保全に果たす森林の役割」などについて、より多くの方々に理解を深めていただくため、国際生物多様性年記念として「地球生きもの会議」開催直前の平成22年10月17日、熊本市のレンガヒル・熊本において、「森林の恵みと直面する危機」～生物多様性の保全と森林の役割～をテーマに第3回目の九州森林・林業セミナーを開きしました。

セミナーでは九州大学大学院理学研究院の矢原徹一教授が「地球の生き物をなぜ守るのか」と題して、世界および日本における生物多様性の現状とその価値、生物多様性の危機をもたらす元凶、私たちが生物多様性をどのように利用し、失ってきたかといった生物多様性と人間との関わり、生物多様性を保全し、自然と共生していくために私たちができることなどについて、また、大阪市立自然史博物館の佐久間大輔学芸員が「里山や草地が担うもの」～生態系サービスの利用と生物多様性の保全～と題し、里山と人間との関わりの歴史や現状、里山が活用されなくなってきていることによる生物多様性への影響やこれからの里山への関わり方についてわかりやすく講演していただきました。

このほか、九州森林管理局の宮城勇朗計画部長が「九州の森林、危機と対応」と題して九州・沖縄の森林における生物多様性の現状とこれを脅かす危機の現状や生物多様性の保全に向けた九州森林管理局の取り組みなどについて報告を行いました。

セミナーには一般市民や行政関係者など約１３０人の参加があり、参加者からは「生物多様性と私たちの生活との関わりやその重要性がよく理解できた。林業と生物多様性の両立が必要」などの声が聞かれました。

（担当＝指導普及課）

講演後意見交換会で意見を述べる参加者

自署の名山

福岡森林管理署
直方森林事務所
首席森林官　坂梨　哲章

『皿倉山』標高622㍍ 山頂からの眺望は360度のパノラマ

昨年の5月号より掲載されております「自署の名山」も2巡目となり、初回は太宰府管内の若杉山から宝満山が紹介されたところです。今回は福岡署2番バッターとして「皿倉山」を紹介したいと思います。

北九州市100万都市の、ど真ん中に聳え立つのが標高622㍍の皿倉山です。完成間近の東京スカイツリーとほぼ同じ高さで、山頂には本州と九州を繋ぐ電波最先端個所として、昭和30年代から各通信社により受発信基地としての施設が林立され、今でも重要な役割を果たしています。

（上）皿倉山山頂から眺望する北九州市街地
（下）権現山より皿倉山頂を望む

このような立地的・歴史的環境の中、北九州重工業地帯としての都市構造がもたらす山麓地帯の発展に伴い、取り巻く森林地帯のいち早い保安林指定、北九州自然休養林、北九州国定公園特別地域、鳥獣保護地区など、地域住民の生命財産を守る為の森林政策が求められ、その使命を果たすべく、公益的機能を重視した森林施業および都市近郊林としての森林空間の利活用に機能を発揮しているところです。

登山・山頂観光・植生探索の他にキャンプ・アーチェリーなど訪問者の目的は多種多様で、頂上へはケーブルカーとスロープカーによる登頂、また近在する権現山・帆柱山・花尾山等と連携する登山遊歩道による多彩な登山コースでの登頂ができます。山頂からの眺望は360度の広がりが訪れる人に感動を呼び起こし、100億ドルの夜景は新日本三大夜景に選ばれているほどです。

山ガール・山ボーイの皆さん、皿倉山から直線で南南東約12㌔の方向に標高902㍍の福智山もあり九州自然歩道で縦走することも出来ます。一度は来て登らんといかんばい！

8合目付近の皿倉山平

関係機関とミヤマキリシマ保護対策

【大分森林管理署】「くじゅうの自然に感謝する日」活動の一環として、久住山国有林の扇ヶ鼻において、関係機関、地元ボランティア団体など総勢26人で、登山道外への立入り規制ロープ柵を設置しました。扇ヶ鼻にはミヤマキリシマが群生しており、多くの登山者が訪れます。このため、登山道以外への立入による踏付けや接触により、ミヤマキリシマの被害が多く見受けられることから、それを防止し、ミヤマキリシマを復活させる目的で実施したものです。これからも関係者が協力し、高山植物の保護活動に取り組むこととしています。

立ち入り規制柵を設置する関係者＝大分

国有林モニターブロック会議を開催
～シカ問題に強い関心～

宮崎森林管理署都城支署管内の都城市およびえびの市において、国有林モニター都城ブロック会議を開催。九州各地から27人の参加をいただきました。

当日はあいにくの雨模様。午前中は西岳森林事務所管内の国有林において、シカ被害地とシカ対策状況の視察を行いました。参加者は、シカネットの設置の状況や、シカの忌避植物であるマツカゼソウの繁茂状況、またヒノキ林の皮剥ぎ被害などを熱心に見学している様子でした。

午後からはえびの高原に移動し、ノカイドウの保護柵設置個所を視察しました。野生鳥獣であるシカが人慣れし、当然のように周辺を行き来している状況をみて、参加者は驚きの声をあげていました。また、笠松式くくり罠の説明と実演には興味津々に見入っていました。

全体として、シカの生態や被害状況について多くの質問が出され、シカの問題に対する参加者の関心の高さがうかがえました。また「民有林ではシカネットを設置してまで造林を行うようなお金はない」など、厳しい現実を知らせる意見もありました。

今後もシカの問題に関する知見を積極的に提供し、皆さまからの意見を活かして対策に取り組んでいくこととします。

（担当＝企画調整室）

現地で説明を聞くモニター会議参加者の皆さん

全校児童へ植物講話

【沖縄森林管理署】西表島にある竹富町立大原小学校からの要請を受け、全校児童45人を対象に植物講話を行いました。大原森林事務所の加島幹男首席森林官が講師となりイヌビワの仲間を中心に植物の特徴や生育する自然環境を説明。児童らはギランイヌビワなどの幹生果・無花果、コバチによる受粉、オオコウモリによる種子散布に興味を示すなど、有意義な講話となりました。

加島首席森林官から説明を受ける児童＝沖縄

九州脊梁山地の林業教育から

熊本県立南陵高等学校
校　長
池本　一生さん

市房山を仰ぎ見る球磨の地、紙すきを生業とする家に生を受けた。

幼少の頃の最初の感動は、眼前の小径を一挙に30台程の車輌がヒノキ等を満載し、降りてくる光景であった。思い出の多くは、ワラビやアケビ獲り、コジイの実拾い、そして幼なじみとの「住み家造り」等、山中での遊びである。祖父に連れられ紙の原材料であるミツマタや炭の原木切りに同行もした。人吉・球磨の地は近代化が如何に進展しようとも、農業と林業が主産業である。

平成4年、本校に最初の赴任をし、林業科を担任した。その頃の衝撃は、活字にはできないものであった。

しかしながら、近年の関係者の御努力に新たな胎動を感じている。その一つが、環境教育の普及による林業教育の再認識である。全生徒が演習林に出かけ、ウッドデッキの上で木の香りを楽しみ、音を聴き生命を確認している。中学生への体験活動にも開放している。

2つ目が、森林の新たなる学校教育への波及である。シイタケ栽培や炭焼きに留まらず、材を活用した新たな製品開発をしている。

3つめが、民間団体「球磨林業奨学会」による林業を志す生徒らへの支援である。この51年間に150人もの生徒に奨学金を贈り続けられ、今年、熊本日日新聞「緑のリボン賞」を受賞された。

最後に、政府が推進する「林業再生を狙った方針の転換」がある。公共施設を整備する際、原則として木造建築とする基本方針である。また、備品や暖房機具の燃料に木材を利用することも求めている。「エコ木材減税」等の施策措置も一考の余地があると思うが。

喜ばしい傾向である。学校現場は、有為な人材育成と新たな教材開発、林業を中心にしたさらなる環境教育の推進等に邁進していく。

ちょっと一言

霧島国有林で森林教室

真剣に問題シートに取り組む児童＝都城

【都城支署】霧島国有林で、都城市立今町小学校5年生に森林教室を行いました。子ども達は、2班に分かれ樹皮ウォッチングと保育間伐を行いました。樹皮ウオッチングは、問題シートの樹木と葉っぱの特徴や写真を基に、解答用紙に樹種名を記入するもの。児童らは答え合わせで正解が出ると声を挙げ喜んでいました。体験林業では初めて使用する鋸に慣れない手つきで挽いていましたが木が倒れると、歓声が沸き上がっていました。最後に児童から、「普段出来ない活動や体験が出来て有意義な時間でした」と感謝の言葉がありました。

5年生児童にお届け講座

【宮崎北部森林管理署】森林インストラクターの大野裕さん、岡崎和代さんの協力を得て、日向市立財光寺南小学校5年生の児童64人を対象に「お届け講座」を開きました。当講座は平成14年度から実施しており今回で8回目。児童らはスライドを見ながら、森林の役割や森林・林業の現状などについて学んだ後、木の名前当てクイズに挑戦しました。その後、丸太切り体験や樹木の名前や特徴について学びました。丸太切りは初めて鋸を手にする児童も多く、一生懸命挑戦し、切った後の満足顔が何とも言えませんでした。

丸太切り体験に挑戦する児童＝宮崎北部

ヤクシカ捕獲へ協定締結

【屋久島森林管理署】屋久島で問題となっているヤクシカによる農林業被害および生態系被害の防止を目的として屋久島森林管理署、屋久島町、上屋久・屋久町両猟友会はシカ捕獲を効率的に進めるための協定を結びました。10月13日の調印式には、各機関の長が参加しました。このように複数の機関が連携した取り組みは、九州では初めてであり、今後はシカ捕獲作業がスムーズに進むことが期待されるとともに、地域住民等の声を積極的に反映させるなど、屋久島のよりよい森づくりに努めていくこととしています

調印式に参加した関係者＝屋久島

モニターの声

藤原　義博さん

国有林を大切にしましょう

私は、長崎県で国有林のモニターをしています。登山を始めて40年になり、県内で山歩きを楽しんでいます。

私達の会では、平成10年から、毎月一回清掃登山を行っており、会独自のチラシをつくり、「国有林を大切に、自然を次世代のために美しく残しましょうと」呼びかけも行っています。しかし、雲仙山系、多良山系の国有林には、最近、登山者によるものと思われる大量のゴミが捨てられ、また、木の枝が折られているなど、登山者のマナーが守られていないのは非常に残念でなりません。

国有林には、災害の防止や、森林と人との共生林としても大切な役割があります。森林と、もっと身近に接していくことで、森林の役割や働きについて知ることが出来るものと思います。このためには、県民一人一人が横のつながりをもっと深くもってほしいといつも思っています。

また、森林は、地球温暖化防止に向けたCO2削減に大きな役割を果たしています。長崎県にもCO2削減の指標がありますが、これからも、私たちが、地球温暖化防止に向け、森林を守り、大切にしていくことが大きな義務であり、責任だと思います。

現在、私は、国有林モニターとして、県内各地の登山愛好者や、レクレーションリーダー、森林サークルの方達に、毎月、訪問しながら国有林に対する意見交換などをしていますので、これからも、よろしくお願いします。

最後に、長崎県内もシカによる被害が多くなってきています。関係機関には、今後の調査、対策に万全を期してほしいと願っています。

（長崎県長崎市在住）

国有林材販売に貢献
～5社に感謝状贈呈～

10月28日、森林管理局長室において平成22年度の国有林材販売協力者に対して感謝状贈呈式を行いました。

これは昨年度の一般競争入札など高額買受者5社を招いて行ったもので、沖修司局長が感謝状を贈呈しました。

続いて、局長は「皆さまのご協力に厚く感謝いたします。森林・林業・木材業界にとって大変厳しい状況にありますが、今後ますますのご健勝・ご繁栄をお祈りします」と受賞者に謝意を述べました。

なお、受賞者は次のとおりです。（順不同・敬称略）

吉田産業 合資会社
代表社員 吉田利生

木脇産業 株式会社
代表取締役 木脇義貴

新産住拓株式会社
代表取締役会長 小山幸治

有限会社多賀林業
代表取締役 多賀美和

有限会社中石林業
代表取締役 中石健二

（担当＝販売課）

感謝状を手に喜びの皆さん

交通安全功労団体で表彰

【宮崎森林管理署】小林市交通安全協会および小林警察署が「交通安全功労団体」の表彰を受けました。これは、地区住民などから、森林事務所の塀で見通しが悪いことから、改良ができないかとの要請があり、小林警察署と立合のもと早急に塀の改良を行い、交通安全の確保に努力したことが評価され、受賞となったものです。

交通安全功労団体を受賞＝宮崎署

五ヶ瀬町内小学生へお届け講座

【宮崎北部森林管理署】五ヶ瀬ハイランドスキー場周辺において、五ヶ瀬町内の小学生を対象にお届け講座を行いました。標高1600㍍の現地は、肌寒い中での講座となりましたが、児童らは息を切らしながらノコを引いたり、ミズメの匂いに驚いたりしていました。また、シカの食害や向山の歴史などの講師の話に耳を傾けていました

肌寒い中での話しに熱心な子供ら＝宮崎北署

「遊々の森」で森林教室

【佐賀森林管理署】神埼市立脊振小学校5・6年生の森林教室を脊振山国有林の「遊々の森」で行いました。はじめに児童らは、森林がダムであることを署員が森林の土と水とを用いた実験により学習。次に、スギ林では、胸高直径と樹高を測定する森林調査を体験。また、ヒノキ林では保育間伐の伐倒を見学しました。児童からは、森林がダムの働きをしていることや山の仕事について理解できたなどの感想が聞かれました。

保護具を着用し熱心に聞き入る児童＝佐賀署

森林春秋

波間にゆらゆら

釣り、というとプロ級の方々が沢山おられるなか小声になりますが、最近は船釣り、といっても乗合船ではなく、手漕ぎボートでの海釣りを楽しんでいます。休日の朝、ぶらりと海辺のボート屋に行ってボートを借り、両手にオールを握ったらもう自分が「船長」です。颯爽と大海原に向けて漕ぎ出し（たいていすぐに息切れするのですが）、青い空と海のまっただ中、適当な仕掛けに適当に餌を付けてポチャンと投下。あとはお魚さん次第です。誰の指示もない代わりに誰の目もないのがいいところ。場所決めも釣り方も全部自己流・自己責任の気楽な釣りです。釣れない時はごろんと昼寝もまた楽し。適度な運動と、何より海の広さと開放感は心身のリフレッシュにも最適です。（ただし強風時の出航だけは禁物で、それはもう大変な目に遭います。）九州の海には貸しボートが少ないのが残念ですが、湖や池でのボートにもまた違った良さがあります。皆さんも今度の休日、ご家族・友人とワイワイ、恋人とロマンチックに、お一人でストイックに、ボート遊びはいかがでしょうか？

（企画調整室長　城風人）

第4回実践・公開講座
34人が草木染めに挑戦

10月17日、監物台樹木園みどりの交流館において、平成22年度第4回実践・公開講座「草木染め」を開講しました。

参加した34人の受講生は、九州森林インストラクター会の廣瀬三重子さんの指導の下、タマネギの皮（金茶色）やセイタカアワダチソウ（黄色）、ログウッド（薄紫色）、スオウ（レッド）を原料に草木染めに挑戦しました。

「どんな色に染まるのだろう?」と初心者は1種類染めに、経験者は2種類染めにと、各自で選んだハンカチやストールに箸を挟んだり、輪ゴムや紐で絞ったりして模様を作り、染料作りや染め、色落ちを防ぐための媒染液作りなど一連の作業を体験しました。

完成した作品を持ち寄り、ロープに飾ってみんなで観賞しました。

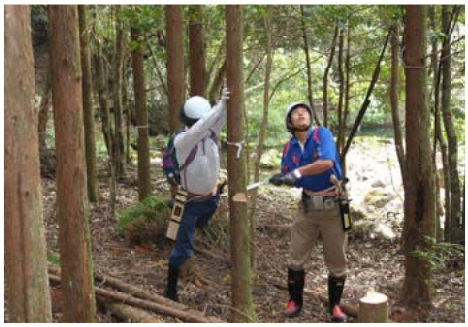
「何度染めても楽しい。次回は麻のストールで染めてみたい」など色鮮やかに染まった作品を手に喜びの声が聞かれるなど、草木染めの奥深さと魅力を感じてもらえた楽しい講座となりました。

（担当＝指導普及課）

色鮮やかに染まった作品を手に喜ぶ受講生

JICA研修生「綾プロ」へ

【宮崎森林管理署】10月15日、国際協力機構（JICA）の依頼により、ラオスからの研修生5人が「綾の照葉樹林プロジェクト」視察に訪れました。午前中は綾の照葉樹林文化館において、工藤篤署長が講義。午後からは現地の綾プロエリアで、森林復元のための間伐体験を行いました。研修生からは、「森林の大切さや、森林を復元する課程を知ることができ、大変参考になった。この取り組みをラオスでも活かしたい」との声がありました。



間伐を体験するラオスの研修生＝宮崎

都会の中の憩いの森 監物台樹木園の多様な植物

㊳ メギ（メギ科）

メギは山地や丘陵に普通に見られる棘のある小さな葉の多い落葉低木です。幹が多数出ていることも特徴です（身近なメギ科の植物は、庭先で観察できるナンテンです）枝や葉の付け根に葉が変化した棘が多数出ています。観察するときには棘に注意です。

葉は単葉ですが写真のように短い枝は束生しますが、長い枝は互生します。名前は、メグスリノキと同じように、昔、葉や幹の部分を煎じて目薬に使ったことからメギとなっています。また、棘が多いことから「とりとまらず」（倉田悟 植物と民俗）「ことりとまらず」（森林家必携）の名前もあります。

メギはヘビノボラズやオオバメギと似た植物ですが、メギは前年枝に稜と溝があり葉は全縁、オオバメギは前年枝に稜や溝がない、ヘビノボラズは葉に鋸歯があることを確認することによって区別できます。メギは樹木園の中央付近、東側で観察できます。

みどりの散歩路

朝夕も冷え込むようになってきました。暦の上では冬を迎えています▼季節の変わり目は、気温の変化などで、体調を崩しやすい人もいます。寒さも厳しくなるこれからの季節に流行してくるのがインフルエンザです。昨年は大流行しました。今年もまた大流行するのかわかりませんが、早めに対策をとり、感染しないようにしたいものです▼昨年は、優性順位でワクチンを接種しなければいけませんでしたが、今年は希望をすれば誰でも接種することができます。流行に備え、予防接種を行ったり、日常生活では、人混みを避けたり、外出後のうがい・手洗い、栄養と休養を十分にとるなど、生活リズムを整え、感染しないようにしてこの冬を乗り切りたいです▼私事ですが、昨年9月から出産・育児で休んでいましたが、今月から復帰しました。しばらくの間、仕事から離れていたので復帰初日は浦島太郎ではなく浦島花子になってしまいましたが、育児と仕事を両立させながら、また皆さんに親しまれるような広報紙を作成していきたいと思います（恵）